

土木の原点、志と勇気

スペイン北西部に、キリスト教の巡礼地のひとつで「サンティアゴ・デ・コンポステーラ」という町があります。その巡礼路を障害者と私たちサポーターとで旅行をした際に、途中の「ドミンゴ・デ・ラ・カルサーダ」というとても小さな町に立ち寄りました。町名にある「ドミンゴ」とはこの町にいたお坊さんの名前で、「デ・ラ・カルサーダ」とは「敷石を置いた」という意味です。

昔、この町の巡礼路は雨の日になるとドロドロになって、巡礼者たちは足を取られ、とても歩きにくい道でした。それを見たドミンゴというお坊さんは、一つ一つ自分で石を運んで巡礼路に並べていきました。そこから、町の名前の由来ともなった「敷石のドミンゴ」といわれるようになったわけです。

この話は、まさしく「土木の原点」ではないでしょうか。一つ一つ石を運んでも、誰からもお礼をいわれるわけでもない。足の下に踏みつけられても、巡礼者たちの幸せのためにやり続ける。そこに「土木の原点」があると思います。そして、誰も知らない人々が、傷んだところを修復しながら、後々までそれを使っていくわけです。土木の仕事って本当に素晴らしいと思います。

近年、人間の力が大きくなり、大規模な土木構造物を造れるようになって来ています。しかし、相手が自然の場合、せめぎあったり対立するのではなく、可能な限り「折り合い」をつけて、穏やかな中間の形で両方が存在するのが土木構造物だろうと思っています。今の社会と同じで、どちらかがどちらかを徹底的にやっつけてし

まうと、具合が悪くなってしまいます。

自然との「折り合い」では、人間が土地に従うのです。人間の方が自然に従って、自然の声を聞いてやっていく。そもそも人間は素直で謙虚です。過去には、バランスを崩した時代もありましたが、昔ながらの「折り合い」をつけた時代のことを忘れてほしい。私たちは、弱者であるときもあるし、強者であるときもある。中間者なんです。土木技術者の志として中間者の視点を忘れないでほしい。昨日よりは今日の方が良くて、今日よりは明日の方がさらにいい。仮に失敗してもそれらを大事な教材と思えばいいのです。

また、その道の専門家というのは、これはやるべきかやるべきではないかということを、本当はわかっている

と思います。その声、つまり自らの声に従ってほしい。良心に照らして生活することこそが、本当の勇気だと思っています。そういう人は素敵ですね。現代の英雄であるときえ思います。

本来の勇気は素晴らしいものです。誰が何と言っても自分の良心を通す。長い間に渡って、うまくやさしく通す。そういうことをみんながやったら社会が変わりません。勇気のない人は生きる資格がないですね。小さくても勇気を持ってほしい。特に若い土木技術者たちは、国造りを長い眼でみて考えてほしいですね。

曾野綾子

SONO Ayako

作家
(本名：三浦知壽子)

■経歴：

- 1931年：東京に生まれる
- 1953年：作家の三浦朱門氏(元文化庁長官)と結婚
- 1954年：聖心女子大学英文科卒業
- 1979年：ローマ法王庁よりヴァチカン有功十字勲章(La Croce Pro Ecclesia et Pontifice)を受ける
- 1983年：韓国ハンセン病事業連合会よりダミアン神父賞を受賞
- 1987年：ダム建設現場を題材とした「湖水誕生」により土木学会著作賞を受賞
- 1988年：フジ・サンケイグループより鹿内信隆正論大賞を受賞
- 1993年：恩賜賞・日本芸術院賞受賞。日本芸術院会員
- 1995年：日本放送協会放送文化賞受賞
- 1996年：バンティオン教皇庁立優秀芸術文学アカデミー会員(Pontificia Insigne Accademia di Belle Arti e Lettere dei Virtuoso al Pantheon)に任命される
- 1997年：海外邦人宣教師活動援助後援会代表として吉川英治文化賞および読売国際協力賞を受賞
- 2003年：文化功労者となる

委員等

日本文芸家協会理事、総合科学技術会議生命倫理専門調査会委員、海外邦人宣教師活動援助後援会代表、日本財団会長、内外情勢調査会理事、産業労働懇話会委員

主な著作

「無名碑」(講談社・1969年)、「地を潤すもの」(毎日新聞社・1976年)、「神の汚れた手」(朝日新聞社・1980年)、「時の止まった赤ん坊」(毎日新聞社・1984年)、「天上の青」(毎日新聞社・1990年)、「夢に殉ず」(朝日新聞社・1994年)、「神さま、それをお望みですか」(文芸春秋社・1996年)、「中年以後」(光文社・1999年)、「部族虐殺」(新潮社・1999年)、「現代に生きる聖書」(NHK出版・2001年)、「狂王ヘロデ」(集英社・2001年)、「原点を見つめて」(祥伝社・2002年)、「現世の深い音」(海竜社・2002年)、「緑の指」(PHP研究所・2002年)、「至福の境地」(講談社・2002年)、「沈船検死」(新潮社・2003年)、「魂の自由人」(光文社・2003年)、「アラブの格言」(新潮社・2003年)、「なぜ人は恐ろしいことをするのか」(講談社・2003年)、「生活のただ中の神」(海竜社・2004年)、「ただ一人の個性を創るために」(PHP研究所・2004年)、「人はなぜ戦いに行くのか」(小学館・2004年)、「アメリカの論理イラクの論理」(ワック株式会社・2004年)

